

心霊現象に対する態度の研究

その他（別言語等） のタイトル	A Study of Attitudes toward Psychic Phenomena
著者	川村 信一
雑誌名	室蘭工業大学研究報告
巻	2
号	1
ページ	163-171
発行年	1955-12-20
URL	http://hdl.handle.net/10258/3064

心霊現象に対する態度の研究

川 村 信 一

A Study of Attitudes toward Psychic Phenomena

Shinichi Kawamura

Abstract

The attitudes of the young men and women toward psychic phenomena were studied. Subjects: 89 college students and 34 hospital nurses. Three kinds of attitudes, belief, uncertain and disbelief were observed. It is clear from the experiments that the demonstrations had the effect of producing a significant increase in the direction of acknowledged belief on the reality of psychical phenomena.

I 緒 言

本研究は「大学生の神秘説に対する態度の研究」¹と題する米国のある大学生に行うた心理学的実験を参考として、日本の大学生ならびに看護婦講習生に対して、心霊現象についての心理学的実験を行うたのである。降神術や伝心術のような不思議な現象に対して大衆が、大なる関心をもっていることはよく知られた事実である。かゝる関心は戦争とか、経済的恐慌のような社会的緊張のもとに、恐怖や不安を感じずる時に著しく増加するらしいということも、またよく知られている。この傾向は、それを単に無知というだけでは説明されない。何故なら教育あるものも、無教育のものも、神秘に対する信仰をもっている。信仰者のうちには、有名な物理学者も、医学者もあるし、また大学教授も普通の市民も、非凡な市民も含まれているからである。

かゝる信仰が、現代の文化の世界においても、根強いものであり、時には、極端な熱狂まで拡大されるという事実を説明せんとすることは、本研究の範囲を越えたことである。こゝでは不思議（すなわち神秘や不可知）を可とする証明が、しばしば、「科学的」であるかのように示されることを考察して見たい。

参加者の理解を迷わし、直接の説明を拒むように見える出来事が真に不思議であり、「科学的説明の限界を越えていること」を参加者に信じさせようとするのも興味あることである。

1 L.W. Crafts, T.C. Schneirla & E.E. Robinson; A Study of Attitudes toward Mysticism Among College Students. Recent Experiments in Psychology, Chap. 1 1950

米国でも、Houdini,² Thurstone,³ McComas,⁴ Dunninger⁵ のような人々は「最も困惑する神秘的実演」を実施したのであり、しかも少しも超自然的力ということをやつていない。却つて、その分野において欺瞞や詭弁があることを好んで示し、かゝる問題を討論している。多くの心理学者も同様である。⁶ 不思議の技巧の最も忠実な熟練者は超自然的な力や「不可解」な神秘をつくることに対して、過大な要求をする公衆を迷わし、驚かすために、いかに詐欺的な詭計をつくるかを、その著書に明らかに示している。事件のかゝる客観的取扱から、読者は霊媒や他の不思議の多くの実演をさらに適当に理解する機会を与えられる。

けれども事実は神秘的現象は多くの人々に非常に魅力をもたれているということである。この魅力が色々な動機に基いており、しばしば各個人のある要求を満足させる欲求を含んでいる。(すなわち、もう一度死んだ息子や夫と交通したいとか、その幸福をたしかめたいなど) 神秘についての一般民衆の騙され易いことは、われわれの文化においても、色々な団体や個人によつてやしなわれ、増加される、McComasが指摘しているように、心靈研究協会は、そのよくある傾向からして、神秘の信仰を受け入れるに貢献している。—— 一般に非常に真面目で—— 神秘的現象に対して「積極的な」証明として認められる研究だけを公開し、従つて神秘の信仰を奨励する傾向がある。けれども、さらに、一層重要なことは、神秘的なものや幽冥なものに大衆の関心を利用することが、経済的に有利であることを見出す人々である。Lee Steiner 女史が、その有名な著書 *Where Do People Take Their Troubles?* において、これらの抜目のない不埒な詐欺師の色々な種類を記し、暴露して、無数の無知なあるいは情緒的に不安な人々を顧客や患者になるように、騙し込むことのできることを示している。

これらの読心術者や霊媒者やその他同様のものは、しばしば、彼等のところへ来る多くの人々に広く印象を与える公開実演をやつて、彼等の要求において、公衆の興味や欺瞞を刺戟する実演をやる。かゝる場合の証人や参加者に示される実演の種類を説明するために、かゝる現象の不思議な解釈に対する大学生らの態度にある洞察を得るために、工業大学学生ならびに看護婦に実演した心靈現象の実験を次に報告する。

なお日本でも、大本教やひとの道のような新興宗教が、信者を獲得するために、色々な不思議な現象を取入れたことが知られている。

又問題は別であるが奇術や魔法はやはり一種の不思議な現象であるが、その背後に仕掛や種

2 Houdini H; *A Magician Among the Spirits* New York, Harper, 1924

3 Thurstone. H; *400 Tricks You can Do*. Garden City, Blue Ribbon Book, Inc, 1940

4 Mc Comas. H, C; *Ghosts I Have Talked With* Baltimore, Williams & Wilkins, 1935

5 Dunninger. J; *Inside the Medium's Cabinet* New York, Kemps Co, 1935

6 Jastrow. J; *Fact and Fable in Psychology*. Boston, Houghton Mifflin, 1900
The Betrayal of Intelligence. New York, Greenberg, 1938

があることが予想されている場合は、却つて合理的な興味が主となつてゐることが当然である。

Ⅱ 教 示

被検者 (a) 室蘭工業大学 1 年目学生 87 名

日 時 昭和 27 年 11 月 14 日 午前

(b) 北海道室蘭保健所主催

看護婦再教育講習会出席者 34 名

日 時 昭和 27 年 12 月 1 日 午後

全学生の面前で実演をする前に、正規の普通の講義に準じて「心霊現象の問題について」と題して、次のような講義をした。然しその内容は、特に価値あるわけではなく、実演に対する集団的な雰囲気や暗示をつくるに役立つためであり、いつもより、ゆつくりノートをとりやすく講義をした。しかもこの教示が次の実演を効果あらしめるために、かなりの影響をもっているのである。

「心理学者」に対して、多くの人々が心霊現象について質問することが多い。ところが心霊現象については、昔から多くの人々によつて研究されており、日本でも井上田了博士は妖怪学なる著書を出している。かゝる学者は心霊問題を科学的基礎のもとに研究しようとしており、近代の心理学者が、かゝる問題に理解のないことを非難し、いかなる近代科学をもつてしても心霊現象の存在に対して反対できないことを主張している。それぞれ今日はその特別な事例として、伝心術 (mental telepathy) を取り上げて見たい。

心理学におけるこの問題についての、今日生じている多大の混乱は感応放射力を「受取る」能力に個人差のあることを示すことの失敗と、感応伝心能力は真の心理学的基礎をもつているという証明を一般的に無視していることに基いているという立場をとつている人がある。

後者の点は脳波 (electroencephalography) ⁷ からの確かな証明についての論議によつて理解される。そして感応的受入れに対して、脳髄皮膜 (cerebral cortex) の色々な層の厚さの個人差の重要性がいくらか詳細に考慮されるという段階まで発展して来ている。(こゝでノートをはなれて、テレパシーや脳波についての説明を加える。声の調子等も考慮してやる)。

感応の発生と電氣的回路の間には相似た関係がある。感応的通信の「送信者」(senders)は強い「脳波」を出すのであり、そして感応力のないものに比較して、かゝる通信の送信者も、受信者 (receivers) も共により厚い皮膜層をもち、従つて、これらの脳波の通過に対し、抵抗を減少するのである。すなわち電気抵抗は長さに正比例し、断面積に反比例する。(こゝで $R \propto l/S$ などを板書して、脳皮膜の厚い方が、感応度が大きであると説明する。)感応有能者 (telep-

7 H.W. Hepner, Psychology Applied to Life and Work vol. 1. The brains electrical waves, Prentice Hall, Inc. 1944

athists)は量の大きい皮膜をもつていると推定され、知能もすぐれていると考えられる。

結局懷疑主義者は普通非宗教的であり、しばしば無神論者あるいは不可知論者であることが指摘される」

勿論以上の教示は全く科学的でない点があり、欺瞞的でさえあるが、これで被検者は社会的に非難される仲間に入りたくないというような気分になるものもあり、又実験されるのに心理的に容易な状態になるわけである。

Ⅲ 実 演 第 1 回

実演の場所はもと寮の食堂であつた高い壇のある教室で、このような実演には割合適當していた。今日はこれから3種類の実験をしたいと告げる。なお実演中は絶対沈黙し、質問しないことを注意する。

(a) 数字あて、先ず伝心術の送信者として、私がなり、その受信者として、多年私の研究室に勤めている中川忠喜氏を紹介した。同氏は私と多年テレパシーのできる間柄であることを説明し、別室に一時退場して、迎えに行くまで、待つてもらうことにした。任意の学生4人を壇上に出てもらつて、1から25までの任意の数字を板書してもらつて、4人の数字を加えて4で割つた数字が13になつた。この数字を全学生に確認してもらつてから、これをすつかり消し去つた後に、別室で待機している中川氏を迎えにやり、私と約2m位離れて、相対立し、私は24×20×8cmのラツク塗りの木箱を心靈箱として両手にもつて支えて、凝視することしばしにして、中川氏は「13」と大きい声で当てた時には、学生の間には、あゝ!というような感嘆の声が發せられた。一人の学生は壇上に飛び出して来て「先生!別の人とやつて見ないか—」と反問された時に、私は「これは送る方と受ける方が、感応力がお互になければならないから、別の人では駄目だ」と答えた。

(b) 封筒の内容あて、厚い封筒6枚と用紙6枚を用意して来て、任意の学生にくばつて、誰にも見せないで、「将来についての簡単な質問」を書いて封筒に入れたものを、中川氏に集めてもらつて、それを私が受取つて、教壇の上におかせた。私は一番上の封筒を手にもつて、うやうやしく、ひたひたにおしあて、この中の紙片には「朝鮮の動乱はいつ終るか?」と書いてあると透視してから、封筒から紙片を出して、たしかに、そう書いてあることを確認してから、再び封筒に入れて「この質問はむずかしいからなかなか答えられない。終る時に終るでしょう」などと冗談を言つた。このようにして、「アイゼンハワーは朝鮮で殺されるか?」「僕は何かで結婚したらよいか?」「美人がもらえるだろうか?」「貰を止め得るか?」「卒業の時にすぐ就職できるか?」と順々にあて、適当な回答を与えて、最後に全部を学生にわたして、内容を検査してもらつた。

(c) 遠隔伝心術 次に遠方の人に伝える実験をと言つて、トランプ52枚を用意しておいて、任意の学生にわたして、これをよく切つて、任意の一枚を抜いて、これを私が受取つた。それはダイヤのキングであつた。それで私は電話1658番の小林信子さんに聞いて見てくれと言つた時には4.5人の学生が走り出て来て、他室の電話をかけに行つた。私はしばし壇上で、精神集中をしながら、待つていた。やがてダイヤのクインであると返事をもつて来た。残念ながらダイヤはあたつたがKとQが違つたものゝ、学生たちは相当不思議に思つたのであつた。

Ⅳ 実演 第2回

第2回の実演の場所は壇のないところで、講習生との距離は割合近かつた。保健所の新しい明るい会議室で、感じのよい環境であつた。

(a) 数字あて、この場合は室工大1年目学生、工藤素平君を受信者として紹介した。そして箱の代りに濃緑色に塗つたゴムまりを心霊球として使用した。数字は6であつた。やり方は前回の通り。

(b) 封筒の内容あて、第1回よりも、大分身振りを強くあらわして実演した。内容は「私はどんな人と結婚するでしょう」「私は生命にかゝわる病気をするのでしょうか」「2年後の私はどうなつていのでしょうか」「私は産婆になれるのでしょうか」「家をたてることができるでしょうか」「この職業は成功するのでしょうか」というようなもので、前回と同じように順々に透視した。

(c) トランプの札あて、選び方は前回のようにして、ハートの6が出た。工藤君と約2m位離れて相対立して、心霊球を両手で支えた。工藤君は最初ハートの7と言つたが、更に考えなおして、ハートの6と当てた。

(d) 遠隔伝心術、ハートの6を示して、電話1685番の浦秋子さんに当ててもらふように電話してもらつた。なかなか電話で聞きに出るものになつたが、漸く3人ばかり、約100mもはなれた保健所へ電話をかけに行つて、やがて帰つて来ての報告は、まさしくハートの6であつた。

女子に対しての実演の場合も、静粛と沈黙を要求したが、案外守れないで、むしろ騒々しい気分であつた。数字を板書するにも、男子のように直ぐ出なかつた。つまり概して態度は消極的であつた。

Ⅴ 心霊現象に対する態度の調査

実演が終つてから、あらかじめ用意した別紙のような用紙をくばつて、今日の講義と実験前と、その後との心霊現象に対する信、不信、不信の各自の態度を記入してもらつた。男子の時には記入前に信の態度の者に挙手をしてもらつたが、手をあげたものが割合多いようであつたが、動揺の気配が感ぜられた。女子の場合には失念して、手をあげさせないでしまつた。

Ⅵ 調査後の教示

調査表を集めてから、この統計の結果はこの次に発表したいと思う。なお心霊現象は困難な問題であり、実は今日の実験はすべてトリックで、種があるのであると、教示した場合、被検者の間には名状し難い動揺が見えた。たゞし米国の大学生の場合のように哄笑は生じなかつた。もつとも米国の場合には、私のような実験の外に任意の学生に9人の姓名を書かせ、その中にかくされた特定の1名の姓名を当てること、また実際に教室をうす暗くして、降霊現象を実演したのであるが、この二つは準備の都合で、実施しなかつたわけである。男子も女子も、そのトリックの種に興味をもつて、種明しを要求したけれども、各自に考えてもらうことにして教示しないことにした。

昭和27年 月 日記		氏名	
		昭和 年 月 日生	
		血液型	
		住所	
講義と実験	前	後	
心霊現象を	信 ず る	信 ず る	
	はつきりしない	はつきりしない	
	信 じ ない	信 じ ない	
該当の態度に○をつけ、他は横線で消して下さい あなたが今最も 気にかかることはなんですか			

Ⅶ 調査結果

第1回、第2回の実演の結果は次の第1表、第2表のようであつた。参考のため米大学生の実験結果を第3表に示す。

第1表 大学生の態度			第2表 女子群の態度			第3表 米大学生の態度		
態度	前 人数%	後 人数%	態度	前 人数%	後 人数%	態度	前 人数%	後 人数%
信	11 (12.4)	14 (15.6)	信	4 (12.0)	17 (50.0)	信	27 (15.8)	73 (42.7)
不解	30 (33.7)	59 (68.6)	不解	18 (53.0)	17 (50.0)	不解	96 (56.1)	64 (37.4)
不信	48 (53.9)	14 (15.6)	不信	12 (35.0)	0 (0.0)	不信	48 (28.1)	34 (19.9)
無記入		2 (0.2)						
計	89(100.0)	89(100.0)	計	34(100.0)	34(100.0)	計	171(100.0)	171(100.0)

次に教示と実演前の信、不解、不信の三つの態度の組の変化の内訳を第4表、第5表に示す。第6表は米大学生の態度変更内訳である。

Ⅷ 調査結果に対する考察

本実験では被検者の少いことが考察上不充分な事項とも考えられるけれども、全体の傾向とくに米大学生の171名の実験結果を参考とすればその不十分を補うことができると考えられる。

第4表 大学生の態度変更の内訳

	実験前 の態度	信 人数 %	不解 人数 %	不信 人数 %	変更者 人数 %	無記入 人数 %
信	(N=11)	9 (81.8)	1 (9.1)	0 (0)	1 (18.2)	1 (9.1)
不解	(N=30)	4 (13.3)	23 (76.6)	2 (6.6)	6 (19.9)	1 (3.5)
不信	(N=48)	1 (2.1)	35 (72.9)	12 (25.0)	36 (75.0)	
計		14	59	14	43	2

第5表 女子群の態度変更の内訳

実験前 の態度	信 人数 %	不解 人数 %	不信 人数 %	変更者 人数 %
信 (N=4)	4 (100)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不解 (N=18)	12 (66.6)	6 (33.4)	0 (0)	12 (66.6)
不信 (N=12)	1 (8.4)	11 (91.6)	0 (0)	12 (100.0)
計	17	17	0	24

第6表 米大学生の態度変更内訳

実験前 の態度	信 人数 %	不解 人数 %	不信 人数 %	変更者 人数 %
信 (N=27)	21 (77.8)	4 (14.8)	2 (7.4)	6 (22.2)
不解 (N=96)	44 (45.8)	39 (40.7)	13 (13.5)	57 (59.3)
不信 (N=48)	8 (16.7)	21 (43.8)	19 (39.5)	29 (60.5)
計	73	64	34	92

はじめ信ずる者の割合が約12%でどちらも違いがなく、米学生の15.8%より低いのは、米国は心理学専攻の学生であるが、本実験では、工業大学生と看護婦であることの差とも考えられる。

不信者の割合が、米学生より高いことも、同様の理由と考えられる。

次に実験後の態度の変化について考察すると、信ずるものは実験そのものが信ずることを肯定する立場であるから変化しないのが当然であると予期されるし、実際の結果は、工大学生11名中1名が不解となり、もう1名は無記入となり、女子は4名とも不変であつた。本実験では不信が実験の結果不解に、不解が信に変化したことは、注目に価することである。特に第2回の女子群の実験では不信が1名もなくなつたことは、実際には実験中既にトリックに気がついた者もあつたように思われたほどであつたが、調査の結果は、実験が集团的に信ずるような雰囲気であつたことが実証された。特に米学生の実験のように降霊の実験をしたならば、その影響が、さらに大であつたろうと推察される。大学生は一般人より批判的であると考えられるが、私はその年の4月より心理学の講義を担当して来て、正規の授業の一部として、実施した教示も一つの集团的暗示となつたと考えられる。女子群の方は5日間10時間の講義の最終日に実施したことが有効に作用したと考えられる。彼女らもやはり一般人よりは、近代のすぐれた医術の行われる社会環境に勤務しているから批判的な筈であるけれども、教示および実演にかなり影響されたのである。

本実験では心霊現象を信ずる態度は、不解や不信の態度よりも一層安定であり、固執的で、根強いものであることが推定される。なお集团的に非科学的説明を科学的らしい説明と受取る傾向のあることも推定される。

Ⅸ 実演の種明し

実演後トリックについては、かなりの興味をもつたらしく、寮生は数日間話題にしたということである。なかには電話番号をわざわざ調べて、該当する宛名がないから、学内で処理したろうと考えた学生もあつたという。もちろん本実演のトリックは普通の奇術等にもよく用いられているもので、決して珍らしい方法ではない。看護婦たちも12月4日に1か月間の講習終了後の懇談会の席上で、種明しを要求され、電話以外の分は説明してやつた。

(a) 数字をあてる方法は、あらかじめ2人で打合せて、箱あるいは球の被検者に見えない反対側の手の人差し指を数だけ動かして合図したのである。第1回は高い壇の上であつたので、好都合であつたが、第2回はゴムマリも小さく距離も近く指の動きをさとした者があつたようであつた。やはり指以外の耳とか声帯を動かすとか、ピアノの伴奏による方が有効であることはたしかである。

(b) 封筒の内容あては、あらかじめ被検者の1名と打合せ、その書く内容を約束しておいて、実演の時、集める助手がそれを一番下にして、実演者にわたし、実演者が一番上の封筒内容を一番下の内容として発表し、その時、その内容を実際に見て知り、順ぐりに繰返すのである。従つてやり方は、かなり動作を大げさにして、疑われないように実演することが大切である。

(c) トランプのあて方は、第2回目の心霊球を使つたやり方は全く(a)と同じ方法であつた。たゞ札の種類4種類の示し方を打合せたが、この場合はハートの6で、球をもつ前に右手を心臓にやつたことを既に見破つた者もあつたらしく失敗のような気がした。最初ハート7と答えたのは、6と知りながら、ゆとりを見せて、試みたということであつた。

(d) 電話で聞く方は、あらかじめ特定の電話の持主と打合せ、52種の姓名を打合せておき両方で名簿を用意しておいた。ところが、KとQを違つたのは両者のKとQの打合せ違いと思われた。それで第2回の時は打合せをしておいて、姓を13種類にし、クラブは信子、ダイヤは愛子ハートは秋子、スペードは礼子ということにしたので、浦秋子がハートの6と答えることが出来た。この方が52名の氏名をさがすよりは、はるかに楽であつた。

実演は以上の3あるいは4種では不足のようである。やはり米学生の実演のように、氏名あてや降霊の実演が必要であるだろう。参考のため、この方法を附記すると、先ず全学生が実演者に集中することが要求され、それから部屋を暗くし、約30秒位して、もう何か見える人があるだろうと聞いて見る。数人が「何か幽霊らしいもの」が見えると答える。見えない人はある「力」をかりる必要があるからと、全学生にある軍歌をうたわせる。歌っている間に「あやしい顔」が見えると、他の学生がさけび出した。それからやがて、電灯を点け実演が終つたというのである。この実演では、学生が教室に集合前に室の真正面の幕にアントラセン溶液で、縦の

卵形を書いておいたのであつた。この卵形は普通の日光では全く見えないが、濾光をした強い紫外閃光（普通の日光では見えない）をあてると、燐光を発生させる。ロールシヤツハ像の類型⁸による性格検査についてよく知られているように、かゝる条件下では多くの参加者は「幽しい」顔や、あるいは自分の知つてゐる顔のように、光の斑点や、かすかな輪郭を解釈するのである。一般に降霊術に会合する人などよりも信じ易くない参加者の中でも、非常に僅かな外的な知覚に基いて、「精霊」を見たとか、聞いたと報告するような人のあることも期待されると述べている。

X 結 言

以上の実験をしてから、心霊問題の討論会や座談会やその他の感想文や意見等を記録編集したのであるが、それらは本報告には省略することにした。

心霊現象に対する態度としては既にⅦの調査結果に対する考察で一応まとめられているが、心霊現象とは何のであるかの問題になると実に多種多様である。ことに観点を広くとると、宇宙全体、地球のあらゆる現象、生物の機能等は科学的に深く攻究する程、その靈妙神秘が覚知される。2m離れた相手の数字は直接解らなくとも、ラジオやテレビジョンによれば、地球の反対側のことを聞いたり見たりできる。原水爆の実現に至つては、聖書にある色々な奇蹟以上の奇蹟とも考えられる。昆虫の変態でさえ、無限の神秘である。この意味では、神秘主義や神秘説は是認されるものであり、このような論議は合理的な科学研究と矛盾することなく、成立することであり、本実験とは別の分野である。「幽霊の正体見たり枯れおばな」という諺は、極めて通俗であるだけ、もつともよく人間心理をあらわしており、心霊現象の一つの説明である。本研究報告が現代青年男女の傾向の一つの資料となることができれば幸甚である。

おわりに本研究実験に協力された、工藤康平、中川忠喜、浅野せつ、日商株式会社室蘭出張所岩淵寿照、寺崎政子等の諸氏、看護婦に実験の機会を与えて下さつた室蘭保健所長熊谷太市氏、其他関係諸氏に衷心より謝意を表す次第である。

なお、本実験方法の指針とした『心理学における最近の実験』の著者等に対し深く感謝を献げる。

（附記） 以上の実験については、昭和29年11月23日北海道心理学会第一回大会にて発表した
（昭和30年5月23日受付）

8 戸川行男，本明寛 早稲田大学改訂 ロール シヤツハ検査 臨床的精神診断法手引および図版
金子書房